

## 久しぶりの韓国訪問

理事長 茂里 一紘

年が明けて第1号の「理事長室から」になります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年10月31日開催の「第6回海洋に関するソウル国際フォーラム」(韓国国土交通海洋省主催)に招待され、出席しました。主題は“The Future Strategy of the Green Ship”です。“Green Ship”は海技研が力を入れて取り組んでいるテーマで、海技研の最近の取り組みを紹介しました。韓国造船業界の様子をこの目で確かめたいという強い思いも持って訪問しました。

私が最初に韓国を訪問したのは1977年でした。韓国が造船に本格的に力を入れ始めた時でした。ソウル大学の故黄宗屹先生が中心となり、日本の大学関係者を順次招待しました。ソウル、インチョンから研究学園都市デジョン、そしてウルサンを経てプサンまで講演と見学をしながら、主な研究機関と大学、そして造船所を訪問しました。6泊7日の滞在でした。デジョンでは韓国船舶海洋研究所の試験水槽が建設中でした。また、ウルサンの現代重工もヤードはまだ建設中でしたが、ドックでは第1船を建造しておりました。現代重工の応接室には朴大統領揮毫の「造船立国」という額が懸けられていました。

35年を経て、今や韓国は、造船建造量だけでなく技術に対する取り組みにおいても文字どおり造船立国となりました。「海洋に関するソウル国際フォーラム」にも韓国の造船・海運関係者約200名が参加しておりました。講師陣に対する副大臣招待のディナーには政府機関からも多くの高官が参加しておりました。翌日訪問した韓国海洋工学研究所(MOERI)には氷海水槽が稼働していました。韓国は北極海航路に関する研究に力を入れておりました。三星重工の研究所では大型キャビテーション水槽が稼働し、日本人技術者が活躍しておりました。韓国先端科学技術大学(KAIST)の海洋システム工学コースには49名の修士課程学生、36名の博士課程学生が在籍とお聞きしました。実験室には日本からの学生も滞在しておりました。

現在、日韓は新造船受注にあって厳しい国際競争を展開しております。MOERIの応接間には竹島の写真が壁に掲げられていました。これまでと異なり、両国は微妙な関係となっています。しかし、私の久しぶりの訪韓に、今は大学教授や企業研究所の所長、あるいは国立研究所の部長として海事セクターで活躍している留学生OBや長いお付き合いの研究者仲間が駆けつけてくれました。本場の眞露を酌み交わしながらの談論風発は、世は変われどこれまでと全く同じでした。「受けた恩は一生忘れない」と彼らが言うのを耳にしました。私もそうありたい。